

小川眞吉 まことよし 畫家。明治四十二年生れ（一九〇一）。昭和十四年渡

石。ノモンハン戦で右腕左眼を失ふ。歸還後その體験を『建文手』を生

きる』（昭和十七年八月二日）興商會出版部）を出版、新國劇の劇化

上演せられそのなご脚光を浴びた。

他に『戦線點描—出征將兵作品集』（合著、日本電報通信社編、昭和

十七年四月）日本電報通信社出版部）等。

雙手に生きる

小川眞吉著



陸軍省報道部推薦
菊池寛氏 吉田茂氏序

文庫春秋、筋の原由より
小川眞吉氏は、ノモンハンに於て敵軍の捕虜を引いて重傷を負ひ、右腕を失ひ、左眼に失明を蒙つた。これは致命な打撃であるが、眞吉はそれになぜか、捕虜生活に耐へて、軍医に救はれた。手は持つて、眼は戻した。示したといふことはその精神的勇気があるからであらう。眞吉は、捕虜生活の間に生きたる、必ず興合のあるものに生きたる。眞吉のこの書に生きたる眞吉の姿が、一本を貫つて描かれている。

菊池 寛氏